

教職・保育職

		理論	技術と技能	保育・教育実践
4年	後期		卒業研究・制作	保育・教職実践演習(幼稚園)
	前期		こども芸術演習Ⅲ	教育実習Ⅱ
3年	後期	教育相談Ⅱ 家庭支援論 こどもと生活	ソーシャルワーク演習 こども芸術演習Ⅱ	実習指導・保育所Ⅱ 実習指導・施設Ⅱ 教育実習指導 保育所実習Ⅱ 施設実習Ⅱ 教育実習Ⅰ
	前期	社会福祉 教育相談Ⅰ	こども芸術演習Ⅰ	保育内容Ⅴ(表現Ⅰ) 実習指導・保育所Ⅰ 保育内Ⅵ(表現Ⅱ) 保育所実習Ⅰ
2年	後期	乳児保育 障害児保育 社会的養護の内容 保育内容Ⅲ(環境)	音楽Ⅳ こどもと保健Ⅱ	素材造形Ⅳ 素材造形Ⅲ 実習指導・施設Ⅰ 施設実習Ⅰ
	前期	こどもと保健Ⅰ 発達心理学Ⅱ 保育内容総論 保育課程論 社会的養護 児童家庭福祉	こどもの食と栄養 音楽Ⅲ	素材造形Ⅱ 素材造形Ⅰ
1年	後期	国語 幼児理解 教育制度論(幼稚園) 教職概論 教育心理学	音楽Ⅱ PC技法演習Ⅱ	マテリアルベーシックⅣ マテリアルベーシックⅢ
	前期	発達心理学Ⅰ 初等教育原理 教育方法の理論と実践 保育原理	保育内容Ⅱ(人間関係) 保育内容Ⅰ(健康) 幼児体育 保育内Ⅳ(ことば) 音楽Ⅰ PC技法演習Ⅰ	マテリアルベーシックⅡ マテリアルベーシックⅠ

創学科目	履修必修科目	クリエイティブベーシック	免許・資格関連	英会話Ⅰ	日本国憲法	体育実技Ⅰ	キャリア関連	キャリアデザインアドバンスⅠ
	コミュニケーションベーシック	心と身体の健康科学	美術史*学芸員のみ	キャリアデザイン基礎Ⅰ				

社会実装科目	演習科目
実習科目	講義科目

人材育成目標(学科)										創造力				人間力									
「こどもの未来」「これからの社会」を作るために、なぜ人は表現するのかという芸術の根源をたずね、人が成長する上で、芸術の果たす役割と可能性を探究します。こどもと関わりながらその存在価値を認め、芸術する心を通して、創造的な生き方のできる人、他者と支え合うことのできる人、社会に向けてアイデアを発信できる人を育てます。										子どもを取り巻く環境を契機に、世界を好奇心や批判的視点を持って観察し自らの目標や課題を発見することができる		必要な情報を収集、調査し視野を広げ、論理的にものごとの関係性について整理、分析し、理解することができる		視点の転換と創意工夫により、独自のイメージを発想し、制作や実践のための計画を立てることができる		テーマや状況に応じた表現方法によって、他者に向けて的確にイメージ提案を具現化することができる		対象の理解に努めながら、自ら積極的にこどもや社会と関わる事ができる		目標に向かって、粘り強く試行錯誤しながら制作や実践を続けることができる		自己理解を深め、他者を尊重しながら、気持ちやアイデアを心から表現し伝え、さらに、よりよい人間関係を築き支え合うことが、言語でも非	
科目名	授業種別	履修学年・学期					単位 必修 選択	テーマ	授業概要	到達目標	探究力	思考力	発想・構想力	表現力	行動力	継続力	コミュニケーション力						
発達心理学I	講義	1	2	3	4	前期	2	子どもの発達の諸相の理解	乳幼児期を中心に、発達の諸相について学ぶ。単に発達の過程をなぞるのではなく、現象の発達の意義について検討し、考察を深める。なお、毎回授業の冒頭部分では、子どもや家庭、保育、福祉などに関する新聞記事を受講生に紹介してもらう。さらに授業後は毎回ミニ感想文を提出してもらう。	1.発達の諸相について関心を高めること。 2.子どもを発達的に捉えることの意義を理解すること。	0	50	100	0	0	0	50	100					
教育心理学	演習	1	2	3	4	後期	2	教育と子どもの心理との関連。教育現場における心理学的知見の応用について学ぶ。	教育心理学の背景となる幼児、児童及び生徒の発達について理解するとともに、教育心理学の代表的な理論や研究成果について、学校教育や保育実践との関連を中心に論じる。その上で、発達や学習の理解、教育効果の促進、障害や心理的問題への対処において教師に求められる知見と、それを踏まえた適切な支援のあり方について考察する。	1)教育心理学における基礎的な知見を説明することができる。 2)教育心理学の教育実践への応用について理解する。 3)教育現場における諸問題を教育心理学の視点から考察し、意見を示すことができる。	0	50	100	0	0	0	50	100					
保育原理	講義	1	2	3	4	前期	2	総合的な視点から、「保育」に対する考え方を学ぶ。また、子どもの発達とより良い保育の関係について理解する。	本授業は、保育、子ども、子どもが育つ環境について理解し、保育内容・方法の原理を学ぶ。また、実践に活かせる保育の計画について理解する。さらに保育の歴史の変遷について学んだ上で、保育の現状と課題について考察する。	多角的、総合的な視点から、保育の原理について積極的に学ぶ姿勢を持つて理解する。	40	80	40	80	0	0	20	40	0	0			
教職概論	講義	1	2	3	4	後期	2	これからの目指すべき教員のあり方	教員としての基本的な心構え、教職の意義、教員の役割と専門性、教員の活躍する場とその職務内容、教員の成長とそれを支える研修のあり方など目指すべき教員の姿とは何かを学ぶ。また講義だけではなく、内容について受講者間の意見や疑問を討論し、各々の内容について自身の考えを述べるようにする。	教員の専門性とは何かを子ども、保護者、同僚、組織の視点から学び、目指すべき教員の姿を理解する。同時に子どもたちの教育に関わる者としての心構え、資質・能力について考え、自分自身を改めてとらえ直し、新しい自分を発見することを目標とする。	0	20	40	0	10	20	20	40	0	50	100		
初等教育原理	講義	1	2	3	4	前期	2	教育者としての子ども理解と初等教育の課題	教育の主体となる教育者の視点から、まず、ひろく教育的営為をどのように捉え、どのような見方ができるのかを多角的に考察する。次に教育者の立場から、教育を見直し、構築し、デザインする力は、どのように考察されてきたかについて、原理的・思想的に検討する。さらに現行の教育制度・政策を支える教育思想やこれまでの歴史の変遷の中で捉えられてきた初等教育の理念・方法・歴史・制度等の課題を考察する。最後に、(創造力)と(人間	1.現代子どもをめぐる教育課題をとらえる教育者としての視点を構築出来るようになる。 2.近代初等教育における初等教育の理念・制度・政策を理解し、批判検討できる視点を深める。	20	40	30	60	0	0	30	60	0	20	40		
音楽I	演習	1	2	3	4	前期	1	幼稚園教諭・保育士に必要な音楽的基礎技能の修得	保育の現場で必要とされる「弾く」と「歌う」をバランスよく習得できるレッスンをを行います。各々のレベルに応じたピアノの個人レッスンと少数グループでの歌唱レッスンによって、音楽の基礎を身につけます。	保育現場での音楽的表現活動のピアノ伴奏ができる。こどものうたの伴奏や弾き歌いができる。	0	0	30	30	30	30	30	10	10	0	0		
音楽II	演習	1	2	3	4	後期	1	幼稚園教諭・保育士に必要な音楽的基礎技能の修得	保育の現場で必要とされる「弾く」と「歌う」をバランスよく習得できるレッスンをを行います。楽譜の読み方など初歩の音楽理論を学びながら、各々のレベルに応じたピアノの個人レッスンと少数グループでの歌唱レッスンによって、音楽の基礎を身につけます。	保育の現場での音楽的表現活動の簡単なピアノ伴奏ができる。こどものうたの伴奏や弾き歌いができる。	0	0	30	30	30	30	30	10	10	0	0		
幼児体育	演習	1	2	3	4	前期	2	身体活動	「走る・跳ぶ・投げる」基本的な動きを基に、子供の身体機能や体力への影響を考え、運動の楽しさを学ぶ。	子供の身体機能や体力への影響を考えた上で、運動やレクリエーションゲームの導入・展開・実践ができることを目指す。	0	0	0	10	20	20	40	60	120	10	20		
マテリアルベーシックI	演習	1	2	3	4	前期	2	造形素材	様々な素材に触れ、「見て」「感じて」「気づく」を促し、保育現場で役立つ造形素材について学ぶ。	表現することの楽しさと意義を実現する。様々な素材の特徴やよさを知り、制作することで表れた「かたち」から制作者の「きもち」を読み取れるようになる。	20	40	10	20	20	40	30	60	0	20	40		
マテリアルベーシックII	演習	1	2	3	4	前期	2	造形技術	様々な素材に触れ、「見て」「感じて」「気づく」を促し、保育現場で役立つ造形技術を身につける。	表現することの楽しさと意義を実現する。様々な素材の特徴やよさを知り、制作することで表れた「かたち」から制作者の「きもち」を読み取れるようになる。	20	40	10	20	20	40	30	60	0	20	40		
マテリアルベーシックIII	演習	1	2	3	4	後期	2	造形活動実践	前期マテリアルベーシックI・IIからの発展科目として、さらに造形に関する知識や技能を身に付け、保育実践における活用を目指す。	柔軟な発想・発見の仕方を学ぶ。プロセスを理解し、素材の準備やエスキース、本制作、段取り、片付けまでを制作行為として体で覚える。保育実践での「造形」としても、今後応用できる知識を身に付ける。	20	40	30	60	50	100	0	0	0	0			
マテリアルベーシックIV	演習	1	2	3	4	後期	2	造形(木工)	前期マテリアルベーシックI・IIからの発展科目として、木を使った保育玩具の制作を行う。	柔軟な発想・発見の仕方を学ぶ。プロセスを理解し、素材の準備やエスキース、本制作、段取り、片付けまでを制作行為として体で覚える。保育実践での「造形」としても、今後応用できる知識を身に付ける。	20	40	30	60	50	100	0	0	0	0			
PC技法演習I	演習	1	2	3	4	前期	1	コンピュータの運用と表現	コンピュータの基礎技術と代表的なアプリケーションの仕組みを理解し、適切な利用法を身につける。また、これらの知識をふまえ、各自が主体的に立案制作を行えるようになることを目指し、Word、Powerpointを用いたプレゼンテーションや、Photoshop、Illustratorを用いた演習を行う。	デジタル機器を用い、各自の企画や作品を、提案または発表ができるようになる事。	0	40	20	20	40	40	0	0	0	0			
PC技法演習II	演習	1	2	3	4	後期	1	コンピュータの運用と表現	コンピュータの基礎技術と代表的なアプリケーションの仕組みを理解し、適切な利用法を身につける。また、これらの知識をふまえ、各自が主体的に立案制作を行えるようになることを目指し、Word、Powerpointを用いたプレゼンテーションや、Photoshop、Illustratorを用いた演習を行う。	デジタル機器を用い、各自の企画や作品を、提案または発表ができるようになる事。	0	40	20	20	40	40	0	0	0	0			
保育内容(健康)	演習	1	2	3	4	前期	2	幼児の健康を目指した保育のあり方について考える。	幼児の心身の発達とその発達上の遅れや問題を中心に論じる。「からだのおかしさ」がもたらす様々な心理的問題を考えることで、幼児の健康をどのように維持、促進できるかを考える。さらに、幼児の怪我や事故の原因を理解し、安全指導の方法についても学習する。	1・幼児のこころとからだに関する問題を知る。 2・発育発達の仕組みについて理解する。 3・保育実践の方法について理解する。 4・幼児の健康を目指した保育のあり方について考える。	0	0	0	20	40	50	100	0	30	60			
保育内容III(人間関係)	演習	1	2	3	4	前期	2	保育を通じた人とのかかわりの育成	授業は乳幼児期の人間関係の発達段階を理解する。特に「あそび」の役割と子どもの発達について学びを深める。また、保育者間の人間関係、保育者と保護者間の人間関係にも焦点を当てて保育者自身の人間関係について考察する。講義はテキストからの学びと、事例検討やグループ討論を用いて進める。	・子どもは様々なことを吸収しながら成長していく。特に乳幼児期からの人とのかかわりは、子どもの発達に大きな影響を及ぼす。本講義では乳幼児の人間関係の発達過程を理解するとともに、「あそび」を通じた人間関係のあり方と保育者の役割を理解する。	0	30	60	30	60	0	0	0	40	80			

科目名	授業種別	履修学年・学期					単位		テーマ	授業概要	到達目標	探究力	思考力	発想・構想力	表現力	行動力	継続力	コミュニケーション力	
		1	2	3	4	前期	必修	選択											
保育内容IV(ことば)	演習	1	2	3	4	前期	2	2	ことばを育む	ことばたちがことばを獲得し、豊かな表現力を身につけていくためには、保育者自身の言語体験が重要になる。この授業では、まず、乳幼児がことばを獲得していく発達のプロセスを適切に理解したうえで、それらを支援していくために必要な種々の児童文化財を用いた言葉の表現技術や方法について学ぶ。	他の領域との関連性を十分に踏まえたうえで、ことばのもつことばの特性を理解する。絵本の選び方や読み方、紙芝居やおはなしの演じ方についても体験し、その技術を習得するとともに、ことばたちの豊かなことばの体験を支援する保育者の役割を理解することを目指す。	10 <sup>20</sup>	20 <sup>40</sup>	20 <sup>40</sup>	30 <sup>60</sup>	0	0	20 <sup>40</sup>	
幼児理解	講義	1	2	3	4	後期	2	2	子どもの行動や子どもを取り巻く環境の意味、見方、かかわり方、保育者の社会的役割について学ぶ	子どもの姿には様々なメッセージが込められている。子どもの言葉や行動からいかに子どもの理解に努めるかが、保育者のあるべき姿といえる。この授業では、子どもの姿をどのように理解していくかを主眼に据え、幼児教育の現場でみられる子どもを取り巻く諸問題とその解決に向けての方法を考える。	幼児理解に必要な保育者としての姿勢、方法について学ぶ。幼児理解を目的とする中では保護者支援の必要性が生じることから、カウンセリングマインドを学ぶ。地域の専門機関との連携を学ぶ。	30 <sup>60</sup>	40 <sup>80</sup>	0	0	0	0	30 <sup>60</sup>	
教育制度論(幼稚園)	講義	1	2	3	4	後期	2	2	我が国の教育制度の変遷、それぞれの改革の動向を学ぶ	教育を支える制度について、その果たしている機能や意味について考察することを通じて、教育に対して広い視野と深い洞察力でもって考えることができるようになることを目指す。とりわけ本講義では、近年の教育改革動向にも目を配りつつ、教育基本法、学校教育法をはじめ就学前教育を含めた学校教育制度の基本的な枠組みや、教育委員会制度など教育行政の基本原則に対する理解と考察を深めていく。	教育制度の歴史の変遷が理解できる。教育制度の機能や意味が理解できる。教育を考える際に多様で確かな見方ができる。	50 <sup>100</sup>	50 <sup>100</sup>	0	0	0	0	0	
国語	講義	1	2	3	4	後期	2	2	幼稚園教諭として、幼児、あるいは保護者と接する際に、正しい日本語で豊かな内容の会話ができるように、幅広い知識を吸収し、実践力を会得する	〔前半〕誤りやすい日本語、敬語の知識、難解語の読みなどの国語常識、〔後半〕古典から現代文までの基本的な教材を読んだり、ディベートをしたりする。	幼稚園教諭として、幼児、あるいは保護者と接する際に、正しい日本語で豊かな内容の会話ができるように、幅広い知識を吸収し、応用できるようにする。また、読み書きだけでなく、話す能力を身につけるために、ディベートを授業に取り入れるなど、観念的な知識よりも、実践力を会得することに主眼を置く。もちろん、幼稚園教諭採用試験合格対策としての知識や技術習得も目標の一つである。	0	20 <sup>40</sup>	30 <sup>60</sup>	50 <sup>100</sup>	0	0	0	0
発達心理学II	講義		2	3	4		2	2	子どもの身体と心、育つ環境について、ともに考えよう	発達心理学Iを踏まえ、ここでは学童期以降を中心に子どもの身体や心の特徴や、成長発達の要点を知る。子どもは環境に依存する存在であり、その育ちに関わる人や社会の様々な環境要因に思いを巡らす。疾病や事故等の知識を基に、看護、早期発見、予防の手だてについても学ぶ。	子どもの持つ“ちから”を信頼する保育・教育の実践。子どもひとりひとりの育ちを大切に、親とともにある。それとともに自らを顧みて、自らを護るちからも養う。	50 <sup>100</sup>	50 <sup>100</sup>	0	0	0	0	0	
児童家庭福祉	講義		2	3	4		2	2	子ども家庭福祉の歴史的経緯と最前線	一市民として子どもを社会で育むという自覚を、そして保育士として、いかに子どもや家庭を支援し、そのウェルビーイングを保障するかということ、歴史的経緯や制度、政策を学ぶとともに現代社会において「社会問題」になっている「子ども」「家庭」「学校(保育所)」などの「問題」について事件、事例をとりあげ、その「問題」の背景を読み解き、現代日本の「子ども」「家庭」のおかれた状況を理解する。	1現代社会における子ども家庭福祉の意義、歴史の変遷について理解する。 2子ども家庭福祉と保育との関連性および子どもの権利について理解する。 3子ども家庭福祉の制度や実施体系等を理解する。 4子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。	50 <sup>100</sup>	50 <sup>100</sup>	0	0	0	0	0	
子どもと保健I	講義		2	3	4		2	2	子どもの身体と心、育つ環境について、基本的知識を得て、智慧を働かせ、ともに考えよう	子どもの身体や心の特徴や、成長発達の要点を知る。子どもは環境に依存する存在であり、その育ちに関わる衣・食・住及び、有害なモノ、コト、子どもに関わる法律、制度、集団生活など、社会の様々な環境要因について学ぶ。疾病や事故等の知識を基に、看護、早期発見、予防の手だてを習得する。子どもの成長、発達、生活困難な状況を知って、ともに暮らす智慧を働かせる。	子どもの持つ“ちから”を信頼する保育の実践ができるよう確かな知識を習得して、自ら考えることを常に課していく。子どもひとりひとりの育ち、暮らしを大切に、様々な生い立ち、現状にある親のしんどさに想像力を働かせ、それとともに自らを顧みて、自らを護り、得意なことを推し進めていくからも養う。	30 <sup>60</sup>	50 <sup>100</sup>	20 <sup>40</sup>	0	0	0	0	0
子どもと保健II	演習		2	3	4		2	2	保育と保健・看護の視点から、子どもの養護について実践的に学んでいきましょう。	子どもの健康が守られることにより、保育の実践はより豊かなものになる。保育者は子どもの発育・発達、健康状態を正しく把握することが重要である。この授業では、子どもの発育・発達状態を理解するとともに、子どもの病気の予防や健康教育、疾病の早期発見、救急処置における看護と安全な保育環境についての知識と技術を学ぶ。	1.子どもの成長と発達、生理的機能の観察について理解し、健康状態の把握ができる。 2.子どもの基本的な生活習慣の獲得への援助ができる。 3.日常生活の養護にかかわる健康教育を理解する。 4.保育のなかでの基礎となる看護技術を理解する。 5.子どもの安全と事故防止、応急手当や救急蘇生法を習得する。	0	30 <sup>60</sup>	0	20 <sup>40</sup>	30 <sup>60</sup>	0	20 <sup>40</sup>	40 <sup>80</sup>
保育課程論	講義		2	3	4		2	2	保育内容の立案を中心に保育の展開について学ぶ	保育所・幼稚園の生活はあそびを通して展開される。したがって保育者には子どもの発達と興味関心のみあつた保育環境を提供していく必要がある。保育で展開される内容にはどのような目的があるのか検討しながら、年間指導計画、月案、週案、日案の立案について学ぶ。	子どもの発達や興味関心年齢にふさわしい教育課程・保育計画を立案できるようにする。大切な保育者の援助の視点についても考察を深める。	0	20 <sup>40</sup>	30 <sup>60</sup>	30 <sup>60</sup>	20 <sup>40</sup>	0	0	0
社会的養護	講義		2	3	4		2	2	児童養護の基礎的理解(障害福祉領域を含む)	1. 養護問題の現状や背景などを理解すること。2. 社会的養護の体系や児童福祉施設(障害児・者領域を含む)の役割について理解すること。3. 児童福祉施設(障害児・者領域を含む)における保育士の役割、援助について理解すること。4. 子ども親や施設養護親を養うこと。	児童養護についての基本的理解と、その社会的背景について理解する。	50 <sup>100</sup>	30 <sup>60</sup>	0	0	0	0	20 <sup>40</sup>	
障害児保育	演習		2	3	4		2	2	障害児保育の基本的理解と、障害のある子ども、障害のある子どもを育てる親への共感的理解	この授業では、特に障害の理解、障害のある子どもの理解、障害のある子どもの家族の理解、障害のある子どもの援助の理解を中心に学習する。障害児保育の歴史や制度の詳細については各自で学習を進めてほしい。講義形式のほか、適宜ディスカッションや体験学習を取り入れる。	1.障害児保育の現状と課題について理解する 2.各障害の特徴や保育上の留意点について理解する 3.障害のある子ども及び親への援助について理解する	50 <sup>100</sup>	50 <sup>100</sup>	0	0	0	0	0	
音楽III	演習		2	3	4		1	1	幼稚園教諭・保育士に必要な音楽的基礎技能の修得	保育の現場で必要とされる「弾く」「歌う」をバランスよく習得できるレッスンを行います。楽譜の読み方など初歩の音楽理論を学びながら、各々のレベルに応じたピアノの個人レッスンと少数グループでの歌唱レッスンによって、音楽の基礎を身につけます。	保育の現場での音楽的表現活動の簡単なピアノ伴奏ができる。ことばのうたの伴奏や弾き歌いができる。	0	0	30 <sup>30</sup>	30 <sup>30</sup>	30 <sup>30</sup>	10 <sup>10</sup>	0	
音楽IV	演習		2	3	4		1	1	幼稚園教諭・保育士に必要な音楽的基礎技能の修得	保育の現場で必要とされる「弾く」「歌う」をバランスよく習得できるレッスンを行います。楽譜の読み方など初歩の音楽理論を学びながら、各々のレベルに応じたピアノの個人レッスンと少数グループでの歌唱レッスンによって、音楽の基礎を身につけます。	保育の現場での音楽的表現活動の簡単なピアノ伴奏ができる。ことばのうたの伴奏や弾き歌いができる。	0	0	30 <sup>30</sup>	30 <sup>30</sup>	30 <sup>30</sup>	10 <sup>10</sup>	0	
素材造形I	演習		2	3	4		2	2	造形活動と保育	1年次で学んだ素材を使って、様々な造形技法を修得する。実際に保育教育現場で役立つ造形の表現や技法を学ぶ。子どもへの造形指導の方法を学ぶ。	自らが表現するだけでなく、技術技法を子どもに伝え、子どもの造形活動を指導する技法を身につける。	0	30 <sup>60</sup>	30 <sup>60</sup>	20 <sup>40</sup>	0	0	20 <sup>40</sup>	
素材造形II	演習		2	3	4		2	2	造形活動と保育	1年次で学んだ素材を使って、様々な造形技法を修得する。実際に保育教育現場で役立つ造形の表現や技法を学ぶ。子どもへの造形指導の方法を学ぶ。	自らが表現するだけでなく、技術技法を子どもに伝え、子どもの造形活動を指導する技法を身につける。	0	30 <sup>60</sup>	30 <sup>60</sup>	20 <sup>40</sup>	0	0	20 <sup>40</sup>	
素材造形III	演習		2	3	4		2	2	造形活動と保育	1年次で学んだ素材を使って、様々な造形技法を修得する。実際に保育教育現場で役立つ造形の表現や技法を学ぶ。子どもへの造形指導の方法を学ぶ。	自らが表現するだけでなく、技術技法を子どもに伝え、子どもの造形活動を指導する技法を身につける。実際の保育教育現場で実践する。	0	0	40 <sup>80</sup>	40 <sup>80</sup>	20 <sup>40</sup>	0	0	0
素材造形IV	演習		2	3	4		2	2	造形活動と保育	1年次で学んだ素材を使って、様々な造形技法を修得する。実際に保育教育現場で役立つ造形の表現や技法を学ぶ。子どもへの造形指導の方法を学ぶ。	自らが表現するだけでなく、技術技法を子どもに伝え、子どもの造形活動を指導する技法を身につける。実際の保育教育現場で実践する。	0	0	40 <sup>80</sup>	40 <sup>80</sup>	20 <sup>40</sup>	0	0	0
乳児保育	演習		2	3	4		2	2	生命の不思議と大切に気づく	乳児期における子どもの心身の発達は著しく、その未熟性から、一人ひとりの発達に応じた大人の保護を必要とする。そして、生命の維持と情緒の安定が保証されてこそ子どもの健やかな発達へとつながっていくのである。発達の可能性に満ちた乳児期に携わる保育者の姿勢が、乳児の健康や発育に大きく影響を及ぼすことを認識し、乳児とどのように関わればよいのか、理論と実践を通して学ぶ。	乳児保育の目的を理解し、0歳から3歳までの成長発達に即した保育内容と方法(生活やおそびへの対応等)を学び、基本的知識・技能の習得を図る。	0	20 <sup>40</sup>	0	40 <sup>80</sup>	0	0	40 <sup>80</sup>	

科目名	授業種別	履修学年・学期				単位		テーマ	授業概要	到達目標	探究力	思考力	発想・構想力	表現力	行動力	継続力	コミュニケーション力					
						必修	選択															
社会的養護の内容	演習		2	3	4		2	社会的養護の具体的内容を考察し、保育士の役割について学ぶ	何らかの事情で親と離れて暮らす子どもたち、子と離れて暮らす親たち、そしてそういった家庭を支える里親、施設、行政の現状に触れ、今日の社会的養護の課題について具体的に考察する。	1児童養護の本質を理解し、社会的養護における具体的なケアのあり方を思考・実践する力を身につける。 2社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。	0	40	80	0	0	30	60	0	30	60		
こどもの食と栄養	演習		2	3	4		2	小児栄養の意義と基礎的理解	私たちが一生健康で豊かな生活を送るためには、バランスのとれた食習慣の確立が大変重要となってきます。一生のうちでも乳児期や幼児期は、最も成長、発達の盛んな時期であり、しかもこの時期からの正しい食習慣が将来の健康に良い影響を与えたとされています。そのような大切な「食」についての理解を深めてもらい、しいては自分自身の食生活の確立にも役立ててもらいたいと思います。また、毎授業で保育士国家試験の過去問題に取り組みます。	保育の中で、子どもたちに「食事の大切さ」「食のおもしろさ」を伝えることができるようになる	20	40	20	40	30	60	30	60	0	0	0	
保育内容III(環境)	演習		2	3	4		2	子どもの知的好奇心や科学の芽を育てる環境	領域「環境」は、子どもが身近な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、意欲的に楽しみを発見し、集団の中でより力を発揮して過ごし、科学的な目を育てることが大切である。本授業では、幼児教育の基本である「環境を通して行う教育」の視点から、幼児教育を理解して教育実践に発展できる教育計画や環境構成の基礎知識や専門的な保育内容「環境」にかかわる技能の習得をめざす。	環境を通して行う教育の理解の上立って、教育実践力を身につける	40	80	30	60	0	0	0	0	0	30	60	
保育内容総論	演習		2	3	4		2	質の高い保育者養成を目指す、保育(幼児教育)の根底となる理念や子ども理解、さらに保育実践の在り方について学ぶ	保育所保育指針や幼稚園教育要領に基づいて、「子どもの健やかな育ち」の基礎となる「環境」を通して行う保育について理解を深め、子どもにどのような経験が大切か考える。また保育内容の構造と実践的理解について総合的に学習する。	子どもの発達段階に応じた保育内容を考え、教育と保育に対する心構えについて自己形成することを到達目標とする。	40	80	30	60	0	0	0	0	0	30	60	
実習指導・施設I	演習		2	3	4		2	施設実習に向けた事前学習	居住型の児童福祉施設等での実習を前に、施設の利用者の理解を深める。	施設保育士の専門性と役割について学ぶ。	0	0	0	0	0	20	40	20	40	60	120	
施設実習I	演習		2	3	4		2	居住型児童福祉施設等における実習	居住型児童福祉施設等での実習を通して、子どもへの理解を深め、居住型児童福祉施設等の機能と保育士の職務、役割について学ぶ。	1 居住型児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2 観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。	0	0	0	0	0	50	100	20	40	30	60	
社会福祉	講義			3	4		2	保育士になるために必要な社会福祉論	現代社会における社会福祉の意義、理念について学ぶ。また社会福祉に関する法制度や福祉サービス、社会福祉援助の実態について学ぶ。そして、社会福祉専門職者である保育士に必要な知識の習得を目標とする。障害当事者及び福祉現場の担当者によるゲストの講義の実施、講義内容に応じて視聴覚教材等を使用する。	保育士になるために必要な社会福祉の基本的な事項、動向等を理解し、知識を取得する。	50	100	50	100	0	0	0	0	0	0	0	
保育内容V(表現I)	演習			3	4		2	感じる・考える・表現する	幼児たちの表現を受け止め理解を深めるため、自然や身のまわりの日用品から、素材集め体験やさまざまな表現活動を行う。毎回、キーワードを設定し、表現について多角的に考察する。また、合評では相互批評から、多様な見方、感じ方に触れ、表現を伝え合うことの大切さを学ぶ。	自らが五感を使って身のまわりの美しさに気づき、創造的に表現することの楽しさを体験する。 子どもの表現を受け止め、理解し、表現の意欲を育てる指導法のあり方について知識を深める。 お互いの表現したものを伝え合うことの意義と大切さを学ぶ。	0	0	20	40	60	120	0	0	0	20	40	
保育内容VI(表現II)	演習			3	4		2	音(楽)あそび・音楽を使った身体表現・子どもの歌唱指導法	季節・機会・子どもの発達段階に応じた歌唱・手あそびを習得する。また人前で歌うことや身体表現をすることに慣れるとともに、音(楽)あそびや子どもに対する歌唱指導法の実践力を習得する。	音(楽)あそびや歌唱指導の実践を通して、子どもの豊かな感性や表現能力を伸ばすことのできる力を養成する。	0	30	60	30	60	40	80	0	0	0		
教育方法の理論と実践	講義			3	4		2	学習者の発達実態に即した多様な学習指導法、授業を行う上で基礎的な技術や情報機器の活用の仕方について学ぶ	・実際の学習場面を視察し、必要な教員の知識や技能にふれ、授業を成立させる指導法について考えることができるようにする。そして、指導の要素となる「言葉」「文字」「見とじ」「発問」「評価」などについて具体的な授業場面を提示しながら有効な方法について考えることができるようにする。さらに教員として指導に必要な情報機器の扱いについても学ぶことができるようにする。	・学習者の発達実態に即した多様な学習指導法について具体的な学習場面を想定しながら活動することによって、学習指導方法に係る基礎理論と知識・技能を身に付けることができるようにする。 ・板書や話し方、子どもの反応のとらえかたなど、授業を行う上で基礎的な技術や情報機器の活用の仕方などを身に付けることができるようにする。	30	60	50	100	0	0	0	0	0	0	20	40
家庭支援論	講義			3	4		2	子育て家庭に関する実態や諸問題、支援についての基礎的理解	1. 家族に関する諸問題と背景について理解する。2. 特に子育て家庭への支援について理解を深める。3. 各地域の子育て支援の実態について調べて、全体に報告する。	子育て家庭とその支援について理解を深めること。	50	100	50	100	0	0	0	0	0	0		
こどもと生活	講義			3	4		2	生活科の背景と低学年の子どもの特性についての理解	生活科の教育原理を国内外の実践事例とともに学び、グループを編成し、単元及び本時の指導計画の作成、教材研究・模擬授業等を実施する。最終的に現場教員に求められる生活科の授業実践の力量を身につけることができるようにする。	生活科の背景と低学年の子どもの特性について理解し関心をもつこと、そして生活科の年間指導計画と単元指導計画を作成できるようになることを目的とする。	30	60	30	60	0	0	20	40	0	20	40	
こども芸術演習I	演習			3	4		4	「こども」芸術「教育」を切り口とした各自の制作・研究テーマの探求1	1、2年次で学んできたことをふまえ、学生作品展に向けての制作・研究テーマを探求する。展示計画や見せ方など、展示の方法についても学ぶ。	学生作品展での展示から、他者への見せ方を知る。後期から取り組む各自の制作・研究テーマを見つける。	0	40	160	0	0	30	120	0	30	120		
こども芸術演習II	演習			3	4		4	「こども」芸術「教育」を切り口とした各自の制作・研究テーマの探求2	1年次から3年次前期まで学んできたことをふまえ、後期からは3つのゼミに分かれ、「こども」芸術「教育」を切り口とした各自の制作・研究テーマを探求する。各自のテーマ探求のプロセスをゼミや中間合評で共有、議論し、学生が相互に学びあいがながら制作・研究を進めていく。	各自の制作・研究テーマを見つけ、表現との関わりで展開させる。また探求の過程を意識化出来ること。	0	40	160	0	0	30	120	0	30	120		
教育相談I	講義			3	4		2	教育相談の基本的知識、技術を学ぶとともに、幼稚園教諭・保育士としての職業的倫理観を養う	まず、自己を知る作業を行い、次に相談業務に関する基本姿勢を学ぶ。教育、保育、福祉等の現場において生徒、保護者等とどのようにラポールを形成するか、いかに環境調整等を行い、生徒や保護者等の自己実現にむけて支援するかについて演習(参加型学習、ロールプレイ、報告等)を行い、理解を深める。	1 教育相談の意義と原則について理解する。 2 保護者支援の基本的姿勢について理解する。 3 教育・保育現場における相談内容の事例分析を通して対象への理解を深める。	0	0	0	0	40	80	20	40	0	40	80	
教育相談II	講義			3	4		2	教育相談の基本的知識、技術を教育相談実践にいかす力を習得する	教育相談Iの内容を踏まえ、ロールプレイを中心として、さらに実践的な学びを行う。また、ケースカンファレンスを通して事例へのアセスメント力を高め、実践的な力をつける。	教育・保育現場における相談内容の事例分析を通してその手法を得て、保育・教育実践に活用する力をつける。	0	0	0	0	40	80	20	40	0	40	80	

科目名	授業種別	履修学年・学期				単位		テーマ	授業概要	到達目標	探究力	思考力	発想・構想力	表現力	行動力	継続力	コミュニケーション力		
						必修	選択												
ソーシャルワーク演習	演習		3	4		2	相談援助の基本的知識、技術を学ぶとともに、保育士としての職業的倫理観を養う	まず、自己を知る。次に相談援助の基本姿勢を学び、保育、福祉、教育等の現場においてクライアントとどのようにラポールを形成するか、いかに環境調整等を行い、クライアントのエンパワメントと自己実現にむけて支援するかにについて演習(参加型学習、ロールプレイ、報告等)を行い、理解を深める。	1.保育相談援助の意義と原則について理解する。 2.保護者支援の基本的姿勢について理解する。 3.保育現場におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。	0	0	20	40	0	20	40	0	50	100
実習指導・保育所I	演習		3	4		2	こどもと向き合う保育実践とは	保育所実習に向けて実習生として必要な知識を学ぶ。(保育所10日間)。保育実習計画を立て、乳幼児の実際の姿を想定して一人ずつ模擬保育を行なう。保育実習Iは学内で習得した総ての授業を生かして保育所や施設において保育の実際を学ぶ場である。日々の努力を重ねる中で、自分らしさを見つめながら、そして自分らしさを認め合いながら、謙虚な気持ちで実習に入ることが望まれる。こうした気持ちは必ず子どもたちの心と響きあう根源となると考えられる。本講義では、楽しく子どもと向き合い、「保育とは?」「こどもと向き合うことは、子どもの人格にどのような影響を与えていくのだろうか」などを考え、学んでいくことを大切にしていきたい。	保育指導案を立てて、こどもの前で実践的に保育が出来るように学習、研究をする。	40	80	0	0	30	60	0	0	30	60
保育所実習I	演習		3	4		2	保育の実際と子ども理解	保育所の1日のデイリープログラムを理解して、子ども理解を深め、保育方法を学ぶと共に、保育指導立案と実践の関係を理解し実践の場の楽しさを知る。	体験的に保育実践を学び、こどもの気持ち理解や保育の計画、反省、評価から次の保育課題を見つける。	0	0	0	0	30	60	30	60	40	80
実習指導・保育所II	演習		3	4		2	保育園における保育士に求められる資質・スキル・技術とは何か	保育実習Iや既習教科を土台とし、保育園の役割や機能について具体的に理解を深め実践力を養う。特に保育の計画、観察、記録及び自己評価等について取り組み、自己の保育の改善について実践的かつ具体的に学ぶ。これらの点を踏まえ、保育士としての自己の課題を明確化したり、保育士の専門性や職業倫理について理解する。	実際に年齢や発達段階に応じた保育指導案を作成し、保育士として必要な資質・能力・技術を取得する。また家庭と地域の生活実態を知ることで、子どもや家庭のニーズに対する理解力や判断力を養うとともに、子育て支援に必要なスキルを養うことを目標とする。	0	0	40	80	0	0	30	60	30	60
保育所実習II	演習		3	4		2	地域社会における保育所の役割と子育て支援	保育所実習を通して、広い意味で地域における保育所の役割や、子育て支援について関心を持って過す。また、保育課程、保育指導計画の理解の上において、1日の保育指導計画立案を作成し、計画とあわせて実践的に保育の方法を学ぶ。自己評価、反省は必ず行ない、その上において、保育の再構築をする。	こどもの気持ち理解や保育の計画、反省、評価から保育課題を明らかにする。同時に保育所の社会的役割について積極的に考察を深める。	0	0	0	0	40	80	30	60	30	60
実習指導・施設II	演習		3	4		2	施設実習に向けた事前学習	児童福祉施設等での実習を前に、施設の理解や利用者への理解を深める。	施設保育士の専門性と役割について学ぶ。	0	30	60	0	0	0	20	40	50	100
施設実習II	演習		3	4		2	児童福祉施設等における実習	児童福祉施設等での実習を通して、利用者や家族への理解について学びを深め、児童福祉施設等の機能と保育士の職務、役割について学ぶと共に体験的に利用者のかかわりを深め実践力を身につける。	1 施設実習を体験することで、利用者への理解を深め、実践的に学びを深める。 2 対人援助職の倫理と専門性を学ぶ。	0	0	0	0	30	60	20	40	50	100
教育実習指導I	講義		3	4		2	幼稚園実習の意義や目的、そして必要性を学び、そのプロセスを大切に準備する。	・幼稚園現場において実際に携わることにあたって、責任ある立場で子どもと接すると教員とはどう違うのか学ぶ。 ・実習に必要な知識や技術を学び、実際に実習でその学びを発揮できるよう準備をする。 ・それぞれが実習に対する学習課題を明確化する。 ・実習経験をふまえ、今後の学習及び制作への意識を高める。	幼稚園実習で十分な成果を納められるように、学びのプロセスを大切に準備する。また実習の終了後には、それぞれが現場で経験し学んだことを整理し、全員で確認することで今後の学びや制作につなげていく。	0	20	40	0	0	20	40	60	120	
教育実習I	演習		3	4		2	幼稚園での保育の実際と子ども理解	幼稚園の1日のデイリープログラムを理解して、子ども理解を深め、保育方法を学ぶと共に、保育指導立案と実践の関係を理解し実践の場の楽しさを知る。	体験的に保育実践を学び、こどもの気持ち理解や保育の計画、反省、評価から次の保育課題を見つける。	0	0	0	0	50	100	20	40	30	60
教育実習指導II	講義			4		2	幼稚園実習の意義や目的、そして必要性を学び、そのプロセスを大切に準備する。	より質の高い実習となるよう、教育実習後半にむけて、前期実習での課題を振り返り、後半実習へ繋げる。 ・実習に必要な知識や技術を学び、実際に実習でその学びを発揮できるよう準備をする。 ・それぞれが実習に対する学習課題を明確化する。	後半実習で十分な成果を納められるよう、学びのプロセスを大切に準備する。また実習の終了後には、それぞれが現場で経験し学んだことを整理し、全員で確認することで今後の学びや制作につなげていく。	0	20	40	0	0	20	40	60	120	
教育実習II	演習			4		2	幼稚園での保育の実際と子ども理解	幼稚園の1日のデイリープログラムを理解して、子ども理解を深め、保育方法を学ぶと共に、保育指導立案と実践の関係を理解し実践の場の楽しさを知る。	体験的に保育実践を学び、こどもの気持ち理解や保育の計画、反省、評価から次の保育課題を見つける。	0	0	0	0	50	100	20	40	30	60
保育・教職実践演習(幼稚園)	演習			4		2	教員としての能力、学級経営を円滑に進める力を養う	教職課程の学びや学校現場での体験や実習を振り返りながら、教員になる上での自己の課題を明確にする。また、本演習を通して教員として実践力と指導力を高める。	①教員としての高い倫理観と規範意識を習得する。 ②教員としての職責や義務の自覚に基づき、高い社会性や対人関係能力を身に付ける。 ③子どもの発達や心身の状況を理解し、学級経営を円滑に進める力を身に付ける。 ④教科に関する指導力を身に付ける。	30	60	20	40	0	0	20	40	30	60
こども芸術演習III	演習			4		4	卒業研究・制作に向けてこども研究を目的に学生自ら発見、探求する課題テーマへの取り組み	3ゼミ選択をベースに各自のテーマ内容について授業展開をはかる。授業概要は各ゼミ担当の指導のもと、学生自らの学びの視点を重視し、個々の学生への対応を図る。学生全体のテーマ課題や取り組みの経過の共有や相互に刺激しあう学びや気づきの機会を適宜設ける。	自らの課題テーマを策定。具体的な卒業研究計画書の提出。他者を意識した作品づくりの展開。自らの就業力へとつなげる行動力と関係する機関、人とのコミュニケーションを築く。	0	0	50	200	0	0	50	200	0	
卒業研究・制作	演習			4		4	卒業研究・制作で、四年間の総合的な成果を目指す	3ゼミ選択をベースに各自のテーマ内容について授業展開をはかる。授業概要は各ゼミ担当の指導のもと、学生自らの学びの視点を重視し、個々の学生への対応を図る。学生全体のテーマ課題や取り組みの経過の共有や相互に刺激しあう学びや気づきの機会を適宜設ける。	自己の目標に向かって制作する持久力が身につく。自らのテーマ探索から具体的な方法、展開と成果を伝えることができる。	0	0	50	200	50	200	0	0	0	

合計	45	85
----	----	----

ポイント計	1580	2600	1600	1820	1700	900	2780
比率	12.2%	20.0%	12.3%	14.0%	13.1%	6.9%	21.4%